

公家町のにぎわい

これらの絵には公家町のにぎやかな風景が描かれています。下の屏風画は 1620 年に行われた後水尾天皇と徳川 2 代将軍秀忠の五女和子の婚姻の行列の様子を描いたものです。公的空間と私的空間を隔てる壁は、現代であれば石やコンクリートで作られますが、当時は土や木でつくられていました。右の 2 つの絵には、御所を訪れた公家と、その行列を見ようと集まった庶民の姿が描かれています。公家町は隔絶された禁域ではなく、驚くほどオープンな空間であったということがわかります。

公家の邸宅の門前で公家たちの姿を眺めることは京都観光の大きな楽しみのひとつであり、江戸時代後半の絵画や案内記にも数多く登場します。

この屏風絵には徳川 2 代将軍秀忠の五女和子と後水尾天皇の婚姻の儀の様子が描かれています。徳川家の嫁入り道具が 560 点も描かれています。右側には、公家町と御所の様子を描いた部分を拡大して示しています。